



E-Mail : nfduj@zenkoku-kowan.jp

# 全国港湾

NATIONAL FEDERATION OF DOCKWORKERS UNIONS OF JAPAN (ZENKOKU-KOWAN)

(発行所) 全国港湾労働組合連合会  
〒144-0052 東京都大田区蒲田5-10-2  
日港福会館1F  
電話：03-3733-2561  
FAX：03-3733-2627  
発行人：玉田雅也  
定価：30円(組合費を含む)

(毎月1回15日発行・平成7年8月18日)  
第三種郵便物認可  
2016年7月15日 第280号

## 港湾労働セミナー意義ある二日間 学習内容を職場に活かす!

全国港湾第三回港湾労働セミナー、六月二八日(火)午後から三〇日(木)午前にかけて豊橋市「パレスリゾート」において、各単組、地区港湾から七五名の参加と、講師や役員、実行委員を含め総勢八九名で開催された。セミナーは四回の講座を聴講し途中、分科会、ボウリングゲームを挟み、最後に分科会結果発表、感想文を提出し、組合運動を学習する意義ある三日間となった。

開会挨拶で、糸谷執行委員長は「全国からの仲間が集い緊張していることと思うが、三日間懇親を深めることも大きな目的でもある。この実績を生かすよう、職場へ持ち帰ってほしい。全国港湾の歴史を学び新しい運動に繋げていくこと」などと挨拶を行い、「全国港湾は、働く者の立場としての国民的諸課題を取り組んでいる。戦争法は、基本を見失ってはいけない。なぜ日本は戦争を放棄したのか。労働法制については、ホワイトカラーエグゼンプション、派遣労働の問題などがあるが、職場で働いた時間が成果である。JALについては、強制解雇は許せない。航空を港湾労働組合として支援することが大事である。日常には、機関紙を



読みホームページへアクセスして国民的諸課題など、その活動を理解したい。であり、交渉相手を見つけたらいい。一九九八年、玉田書記長から講演「日祝完休」のたたき。産別労働協約の重要性を述べた。夕食懇親を兼ねた表彰式では、順位の発表に「一喜一憂、団体飛躍も表に」一喜一憂、団体飛躍もあり、大いに盛り上がった。最終日、第四講座は「ITFの取り組み」と題し、玉田書記長の総評では、「皆さんの力で成功裏に終了することが出来た。セミナーで一つは、しっかり交流すること。お互い声がかかれば、いいことになる。写真掲載」



七月二四日(木)、二四時より博多中央港湾福祉センター(二三名)、神戸港湾(一四名)、関門港湾(一〇名)、博多港湾(二八名)が集結して山中議長より、今回

あり、産別協定はこれから必要であること述べ、各種基金、年金制度、事前協議などを解り易く解説を頂いた。

その後、日程説明、諸注意があり第一講座として渡邊元書記長の「全国港湾の歴史と産別運動について」を講演を受けた。講演は、港湾産別運動は要求に基づいた運動であり、「魅力ある港湾労働」を求めて、一九七二年から四十四年間ぶれない労働運動である。港は一つの工場であり、一種から八種までの異業種が共同して一つの工場内港運産業を完成させている。個別労使でどんなに良い条件を約束しても、港の制約として確立していなければ折角結んだ協定も「絵に描いた餅」、そのことが各単組の共通の悩みであった。そこで港湾現況に当ってはめた政策運動の必要性を理

博多祇園山笠を観る  
西日本四港交流会議

西日本四港交流会議は、博多の一大イベントの一つである祇園山笠の期間中であり、またこの祭りの一番の盛り上がりを見せる「追い山」が明日の朝四時五九分から、行われますので、会議もいよいよ、このような時期にお越し頂いているので、ぜひ博多祇園山笠を観て帰っていただきたい。

二つは、歴史を学び協定が出来、将来に向けて再勉強して、職場で活用すること。労働者の立場に立った活動を行い、対峙することについては、皆で立ち向かう。職場の要求一点で、団結してたたかうこと。協定順守では、職場で活かすことをお願いする。ITFの講義で、世界のことを理解できたいと思う。産別協定も同様

午後からは、レクリエーションとして、ボウリングを兼ねた。夕食懇親を兼ねた表彰式では、順位の発表に「一喜一憂、団体飛躍もあり、大いに盛り上がった。最終日、第四講座は「ITFの取り組み」と題し、玉田書記長の総評では、「皆さんの力で成功裏に終了することが出来た。セミナーで一つは、しっかり交流すること。お互い声がかかれば、いいことになる。写真掲載」

シャモ樽  
マイケル・ムーア監督の『世界侵略のススメ』という映画をご存知だろうか▼  
見ている人

重要性を細かく説明を頂いた。続いて、分科会結果発表では、全国港湾の理解が進んだ。今後は職場に持ち帰り、活動に活かしたい。ボウリングでより深く交流できた。など、勉強になり、よかったなどの感想が多く出た。協定順守については、ITFの講義で、世界のことを理解できたいと思う。産別協定も同様

無縁で学んでいること▼ドイツの週労働時間は三六時間、プライベートな時間には上司が部下に電話連絡することは法律違反にあたること▼また、アイスランドでは『女性の活躍』が自覚しい。男女平等ランキング一位で、世界で最も女性が住みやすい国。金融立国でもあるアイスランドをリーマンショックが襲った際、唯一黒字経営を続けていた銀行の経営者は女性だった▼もちろん、それぞれの国にも欠点はある▼しかし、様々な国への取材から、その国が何を大切にしているのかがよく分かる▼もし、マイケル・ムーア監督が日本を描いたらどんな映画ができるだろうか。それ